

マレク・クウィック

欧州連合での国際研究協力： 計量書誌学的研究

STUDY

Panel for the Future of Science and Technology

EPRS | European Parliamentary Research Service

Scientific Foresight Unit (STOA) PE 634.444 – July 2019

著者

この研究は、科学技術の未来のためのパネルの要請で、ポーランドのポズナン大学の組織研究と高等教育政策のユネスコ議長、公共政策研究センターのディレクターであるマレク・クウィック教授によって書かれました。

STOA)、および欧州議会事務局の議会研究サービス総局 (EPRS) 内の科学的予測ユニットによって管理されています。

謝辞

著者は、フランスストラスブール大学CNRSのICube研究所副所長Paul Montgomery、および科学的目的のための英語の科学的コーディネーター、フランスストラスブール大学CNRSのICube研究所の科学ネットワークコーディネーター、調査。

管理者の責任

Gianluca Quaglio、科学予測ユニット (STOA)

出版社に連絡するには、stoa@ep.europa.euにメールしてください。

言語バージョン

オリジナル：EN

原稿は2019年7月に完成しました。

免責事項と著作権

この文書は、欧州議会の議員およびスタッフのために、議会の活動を支援するための背景資料として準備され、宛てられています。文書の内容はその著者の唯一の責任であり、ここで表明された意見は議会の公式の立場を表すものと解釈されるべきではありません。

非営利目的での複製および翻訳は、ソースが承認され、欧州議会が事前に通知され、コピーが送られれば許可されます。

ブリュッセル©欧州連合、2019。

PE 634.444

ISBN : 978-92-846-4871-9

土井 : 10.2861 / 68729

QA-04-19-477-EN-N

<http://www.europarl.europa.eu/stoa> (STOAのウェブサイト)

<http://www.eprs.ep.parl.union.eu> (イントラネット)

<http://www.europarl.europa.eu/thinktank> (インターネット)

<http://epthinktank.eu> (ブログ)

英語の完全なドキュメント（114ページ）はこちらです。

[http://www.europarl.europa.eu/stoa/en/document/EPRS_STU\(2019\)634444](http://www.europarl.europa.eu/stoa/en/document/EPRS_STU(2019)634444)

抽象

国際研究協力（IRC）は現代の高等教育および科学システムの中核であり、国際的に共同執筆された出版物の割合は世界的におよびヨーロッパ全体で増加しています。この研究の目的は、過去（過去10年以内）の出版および引用の傾向に関する大規模データ、すべての欧州連合加盟国（EU-28）における学術知識生産の変化する性質、および傾向に基づいて分析することです急進的な国際化に向けて。

この研究は、IRCに関する理論的知識と最新の経験的データおよびその分析を組み合わせたものです。この定量的研究は、これらの変化のペースとその深さにおける国家間および制度間の差異を評価するために、国のマクロレベルと旗艦機関のメソレベルを分析します。このレポートでは、2007年から2017年までのScopusおよびSciValデータを使用しており、研究におけるコラボレーションの分析は、出版物および引用に関する計量書誌データに基づいています。

実証分析の前に、研究の国際化のプロセスに関連する動機に関するセクションと主要な障壁に関するセクションが続きます。この研究は、欧州レベルでの国際的な研究協力を改善するための政策オプションを提案しています。

エグゼクティブサマリー

1. はじめに

国際研究協力（IRC）は、現代の高等教育および科学システムの中核です。共同研究者間の平均距離と同様に、国際的に共著された出版物の割合は、世界的およびヨーロッパ全体で増加しています。本研究は、理論的にはIRCに関するグローバルな研究文献（その動機と推進要因、利点、コスト、主要な障壁）に基づいており、その経験的部分は以前の研究から選ばれた調査結果をサポートするために使用されます。このように、このレポートはIRCに関する理論的知識と最新の経験的データおよびその分析を組み合わせています。

この研究の目的は、過去（過去10年以内）の出版と引用の傾向に関する大規模データに基づいて、すべての欧州連合加盟国（EU-28）における学術知識生産の性質を根本的に分析することです。国際化の増加。この定量的研究は、これらの変化のペースとその深さにおける国家間および制度間の差異を評価するために、国のマクロレベルと制度のメソレベルを分析します。この研究は、国際的な科学協力文献の理論的文脈における研究の国際化に関する計量書誌データを調べ、欧州レベルでのその改善に関する政策オプションを提案します。実証分析の前に、動機付けに関するセクションと、研究の国際化のプロセスに関連する主要な障壁に関するセクションがあります。

2. IRCのドライバー

IRCは、「個人の計算」としての科学者のアプローチに大きく依存しています。科学者は、学術的な名声、科学的認識、研究資金へのアクセスという点で有益であるため、国際的に研究に協力しています。したがって、個人レベルの動機と、部門レベル、制度レベル、および国レベルの研究方針を用いた国際化の推進力の収束が必要です。また、IRCの推進力には、可視性の向上、新しい知識、将来の価値のある連絡先が含まれます。IRCの重要な要素としての地理的近接性（または空間的近接性）とは別に、文化的近接性も重要です。文献で報告されているのは、「目に見えない大学」の役割であり、卒業生は、同じ文

化的および学問的伝統を持つ他の卒業生とのみ協力し、強い専門的なネットワークのつながりを形成する傾向です。アカデミックエクセレンスの問題は、個人レベルおよび制度レベルの両方で、潜在的な研究パートナーの魅力がIRCで重要な役割を果たすことを意味します。コラボレーションの形成は、参加者の学問的な優秀さに比例するだけでなく、そのインパクトの利点もあります。研究では、学問の優秀さと共著の確率との間に重要な関係があることが示されています。研究者が経験を積むほど、協力する傾向が高くなります。研究者が所属する学部のランクが高いほど、共同研究する傾向が高くなります。また、著者のランクが高いほど、協力する傾向が高くなります。すべての科学が国際化の需要によって平等に推進されているわけではありません。4種類の国際協力は次のとおりです。データ主導の協力（遺伝学、人口統計学、疫学など）。リソース駆動型のコラボレーション（地震学、動物学など）；機器駆動型のコラボレーション（天文学、高エネルギー物理学など）理論に基づくコラボレーション（数学、経済学、哲学など）。Wagner（2005）は、国際共同研究のさまざまな動機が、国際的に共著された論文を通して見た研究の国際化の範囲とパターンに影響を与えることを示しています。リソースの可用性により、IRCのレベルが上がります。それを超えて、科学者はグローバルな知識ネットワークを形成する接続を作成し、維持します。これは、主に「他者へのリソースになるためです...接続は参加メンバーにとって相互（または潜在的な）関心がある限り保持されます」（Wagner 2018：62）。要するに、ネットワークは（国際的な）コラボレーションを意味します。

3. IRCの障壁

IRCの障壁には、マクロレベルの要因（地政学、歴史、言語、文化的伝統、国の規模、国の富、地理的距離）が含まれる場合があります。制度的要因（評判、リソース）；および個々の要因（偏見、魅力）。また、資金不足、コラボレーターの検索、コミュニケーション（異なる言語、個人/家族のコミットメントの管理、仕事のコミットメントとコラボレーションを開始/実施するための時間のコミットメントの管理）も含まれます。コラボレーションのコストはさまざまな形をとることができます。科学者や管理者を含むすべてのスタッフカテゴリのすべてのヨーロッパの科学システムで、国際的な物理的移動のコストが増加しています。最後に、コラボレーションは研究の管理コストを増加させます：より多くの人々とより多くの機関が関与するため、研究を管理するためにより大きな努力が必要です。

4. データソースと方法論

このレポートで分析されたデータは、約4万のジャーナル、書籍シリーズ、約6,000の出版社（エルゼビアが所有）およびSciVal（エルゼビアの研究）をカバーする査読付き文献の最大の抽象および引用データベースであるScopusから取得されました230か国の研究実績へのアクセスを提供するインテリジェンスツール、および世界中の12

600の機関とその関連研究者。SciValは、1996年から現在までのScopusデータを使用しており、4,800万レコードをカバーしています。SciValは、Scopusから毎週新しいデータの更新を受け取ります。このレポートで設定されたWeb

of Science（WoS）グローバルインデックスデータではなく、Scopusを選択した理由は、特にEU-13諸国の学術雑誌の報道率が高いことにあります。このレポートでは、研究のパフォーマンスの基本的な傾向を分析し、時間の経過とともに変化するコラボレーションタイプを分析するのに十分な時間枠があると仮定して、2007-

2017年のデータを使用しています。研究における共同研究の分析は、出版物に関する計量書誌データという単一の出力データタイプに限定されています。IRCへの全体的なアプローチは明白でした。IRCは、他の3つのコラボレーションタイプのコンテキストで分析されました。機関RC（複数著者による研究成果、すべての著者はヨーロッパの国の同じ機関に所属）、国家RC（マルチ-すべての著者が同じヨーロッパ国内の複数の機関に所属している著者による研究成果、および単独著者（または共同研究なし、単独著者がヨーロッパの国の機関に所属している単著の研究成果））。

5. 結果

マクロレベルで

実証分析は、国際的に共著された記事の数と国内産出物の割合の両方が、EU-28諸国すべてで過去10年間に増加していることを示しています。研究期間（2007-2017年）に国際協力で執筆された記事の数は、中国の588,087と比較して、EU-28では2,193,504、アメリカ合衆国（USA）では1,437,621でした。ただし、同時期におけるこれらの出版物の年間最大数の増加は、中国の場合（309.02%）でした。国内およびそれらの間では、科学の分野ごとに異なる増加を伴う実質的な学際的な差別化があります。EU-28で、2017年に国際協力で掲載された記事の最大数ははるかに自然科学のためによりだった（175150;および109624でUSA）医学、続いて（84325;とで64029 USA）と最低人文科学者向け（5,480;および米国では2,880）。2017年、国際的に共著された論文の割合は、EU-28か国で44.4%（EU-15か国で47.1%、EU-13か国で39.2%、米国で40%、中国で22.2%）でした。したがって、欧州のIRCは米国と同様のレベルであり、中国よりも150%人気があります。

国内協力の割合は、中国（30.2%）が最も高く、次に米国（23.7%）、EU-28か国（18.9%、EU-15とEU-13のグループ間で有意差があります：19.2%および15%.3）。制度的協力の割合は、45.4%（中国）と24.1%（EU-15、EU-13諸国でかなり大きい、33.5%）の範囲です。最後に、単著の出版物のシェアは中国で最も小さく（2.4%）、その他の国のグループではわずか9.5-12.1%のレベルにとどまっています。同じ傾向（2007-2017年）と同じパターン（2017年）は、調査したすべてのEU-28か国で明らかです。調査期間中にIRCが増加していないEU-28の国は1つもありません。また、すべての国で2017年に学術科学における支配的なコラボレーションタイプでした。国際共著の総数の大きな違い調査対象の欧州諸国の出版物は、すべての割合ベースのIRCトレンドで留意する必要があります。

EU-28諸国は、他の2つのパラメータに関してIRCの点でも大きく異なります：協力パートナー国とフィールド加重引用インパクト（FWCI、または対象分野の予想される世界平均に対する受信引用の割合、国際的に共著された出版物の出版タイプと出版年）。国際共著論文の最大の数が間に観察され、中国と米国イギリス（UK）と続く、米国、ドイツとアメリカだけでなく、フランスと米国。ヨーロッパにおけるIRCの主要な特徴は、米国との強力な協力関係です。英国、ドイツ、フランスは、他のどのヨーロッパの国よりも米国とより強力で協力しています。2013-2018年には、172,887の論文が英国と米国の科学者によって共同で書かれ、141,195の論文がドイツと米国の科学者によって共同で書かれ、93,308の論文がフランスと米国の科学者によって共同で書かれました。対照的に、ヨーロッパ内の2つの共同パートナーによって書かれた論文の最大数は90,202のみです（調査期間中にドイツと英国の科学者が共著した論文）。中国は米国の科学の最も強力なグローバルパートナーですが、ヨーロッパではたった1つの国である英国のみが中国と広く協力しています（調査期間中に63,625の論文が共同で書かれています）。

メソレベルで

このレポートでは、マクロレベルの国の分析に加えて、メソレベルの（選択された主要な）機関の分析が行われています。最も一般的な用語では、2017年のコラボレーションの傾向とコラボレーションパターン（4つのコラボレーションタイプ：機関、国内、国際、および単著による）は、EU-28諸国とその主要機関で類似しています。ただし、国際化の傾向は、主力機関の方が国よりも激しくなっています。

国際協力の割合は、EU-15諸国にある大学よりも、EU-13諸国にある主要大学の方が平均して低くなっています。EU-13諸国にある主要な大学は2007年から2017年の間に国際協力の60%のレベルを超えず、3つだけが50%

を超えましたが、EU-

15の5つの主要大学は国際の60%のレベルを超えました（大学のルクセンブルク、大学のウィーン、カロリンスカ研究所、KULルーベンと大学のオックスフォード）。EU-28の主要な4つの大学でのみ、2017年の1年間に国際的に共著された出版物の割合は50%未満でした（すべて中央および東ヨーロッパにあります）。調査したすべての大学で、国際的に共著された論文の割合は2007年から2017年にかけて大幅に増加しました。

パターンは、国際協力ごとの引用の影響の最大の増加は、EU-

13諸国にある機関で観察できることを示しています。上位5つには、チェコ共和国、スロバキア、クロアチア、ポーランド、ルーマニアの機関が含まれます。増加率は次のとおりです。カレル大学（プラハ）が336.9%、コメニウス大学（ブラチスラバ）が290%、ザグレブ大学が参加メンバーまで（Wagner 2018 : 62）。要するに、ネットワークは（国際的な）コラボレーションを意味します。

（抜粋）

7. ポリシーオプション

政策オプション1：IRCは、国家研究政策の中心にあるべきです。

学術知識の生産の国際的な認知度を高めることに焦点を当てた国の高等教育システムは、国の研究政策の中心に研究の国際化を導入する必要があります（ノルウェーはその良い例です。Gornitzka and Langfeldt

2008を参照）。欧州諸国は、高等教育システムのガバナンスと資金調達方法を変え、研究政策を国際化して世界の競争力を高めてきました（Horta and Yudkevich 2016; Shin et al. 2014; Kwiek 2013; Kwiek 2015b）。

同時に、研究における世界的および欧州内の競争はいくつかの面に反映されています。

- 人的資源、または才能の競争（科学賞受賞者および高被引用研究者を含む）
- 資金調達、またはEU研究資金の競争（ERCからの競争の激しい個人研究資金を含む。Bloch and Schneider 2016を参照）
- 研究業績、または引用率の高い出版物および引用率の高い雑誌の出版物の競争（たとえば、引用パーセントイルの上位1 %または10 %の出版物、および出版物パーセントイルの上位1 %または10 %の出版物、Bornmann et. al. 2013; Bornmann et al. 2014; and Didegah and Thewall 2013)
- 国際的な学術ランキング（特にWoSデータに基づくライデンランキングのような完全に研究ベースのランキング）。

IRCが国の研究政策の中心に移動する必要がある場合、英語は、今日ではグローバルサイエンスの言語としても認められるべきです。なぜなら、ますます「英語を母国語としない人は出版しようとする」と挑戦に直面する」からです（Powell 2012）。学術的および科学的な英語は、国際的な規模で成功するための鍵を握っています。

国家研究政策の中心に研究の国際化を導入するということは、国家レベルから制度レベル、部門レベル、個人レベルまで、HEシステムのあらゆるレベルの運用を指します。最も一般的な用語では、国際化を支援する研究政策は、単に国内のトップ出版物ではなく、学術的雇用におけるトップの国際出版物を促進し、研究における単なる国内共同研究ではなく、国際的な共同研究を促進すべきです。彼らは、機関への直接的なブロック資金提供と、国内の研究評議会（または同等のもの）での間接的な個人レベルの

競争的研究資金提供の両方で、国際出版チャンネルを促進すべきです。彼らはまた、個々の科学者のレベルで、科学における賞と報酬システムの研究の国際化を促進すべきです。

そのため、成功した大学、学部、研究チーム、および個々の科学者の国家モデルを明確にする必要があります。学術的に成功することはできず、研究で国際化されていないユニットや個人に対しては、いかなるレベルにおいても大きな資金は授与されません。研究パフォーマンスのプロファイルが主に国際的ではなく国内的である科学者が利用できる（または再生可能な）教授法はありません。一部の国内システムでは、詳細なガイダンスが必要です（数またはパーセンテージ、出版物またはジャーナルのパーセンタイル、または国内ジャーナルのランキングリスト）。その他では、研究の国際化アジェンダを実施するための一般的なガイダンスで十分です。

ただし、このレポートが強調しているように、IRCは「個人の計算」として科学者の個々のアプローチに大きく依存しています。科学者は学術的な名声の点で有益であるため、トップレベルの国際出版を含む研究で国際的に協力しています科学的な認識と学術的な報酬と研究資金へのアクセス。そのため、国際化の個人レベルの推進要因と、部門レベル、制度レベル、および国レベルの研究方針の間の収束が必要です。

研究の国際化アジェンダを成功させるには、高度に国際化された機関、部門、研究チーム、科学者が地元の研究機関よりも優れている必要があります。国内の研究評価演習のさまざまな変種の研究において、国際的に地元で研究を促進する必要があり、通常は機関またはその組織単位の異なる国内ランキングにつながります（Ponomarev and Boardman 2010）。IRCは、資金と学術的な名声により重要であり、学術組織のすべてのレベルで一貫して推進される必要があります。通常、国家評価の演習と機関ユニットまたは機関のランキングに対する主要な反対者は人文科学から来ており、その主要な支持者は自然科学から来ています。したがって、国家および制度のシステムは、学際的な柔軟性を保証する必要があるため、研究の国際化を体系的に推進するという考え全体が危険にさらされることはありません。各システムには、通常、各国語、文学、歴史に関連する限られた数の地元の学問分野があります。

ポリシーオプション2：IRCに大規模な資金を提供する必要があります。

世界的にトップの科学者は、トレーニングや教育機関にローカルに根ざし、国が資金を提供しているネットワーク化された共同研究をますます選択しています。欧州諸国は、研究でより国際化されるように学部を支援することを検討し、IRCに大規模な資金を提供して、グローバルレベルでの忍び寄る孤立を回避する必要があります。

国際化のコストは、ヨーロッパのすべての国家システムで増加しています。新しい閣僚プログラムやIRCに向けられた国家研究評議会のプログラムの予算を含む、研究の制度的および国家的予算を比較するだけで十分です。国際化コストには、数十万人の旅行科学者の旅費や生活費などの従来のアイテムと、グローバルインデックスデータセットやグローバルな学術雑誌のサブスクリプションなどの新しいアイテムの両方が含まれます。博士課程の学生、ポスドク、ジュニアおよびシニアの科学者は学術ビジネスのために頻繁に旅行し、グローバルな知識ベース（クラリベイトアナリティクス、エルゼビアおよびその他の商業プロバイダーが提供する出版物およびデータ）へのアクセスを前例のない程度に使用します。ジャーナルおよび書籍の購読とICTインフラストラクチャコストは、IRCの成功に不可欠であり、世界的にもEU-

28諸国でも増加しています。国際的な学術旅行、グローバルな学術雑誌、書籍、ICTインフラストラクチャが国際化の中心にあるため、国際化関連コストの上昇に注意し、予算規模とその内部配分の両方に反映する必要があります。IRCのコスト-そしてそれは多くのコストがかかります。

したがって、知識生産の国際的な認知度を高めようとする国家システムは、国家研究政策の中心に国際研究を設置するだけでなく、研究の国際化への相当な公共投資を考慮する必要があります。1つの選択肢は公共投資を増やすことであり、もう1つは支出の優先順位を異なる方法で選択することであり、研究の国際化に焦点を当てています。異なるシステムでは、異なるオプションが可能です。ただし、両方のオプションを無視すると、ヨーロッパ全体、特にEU-

13諸国で国家科学システムが徐々に国際的に孤立する可能性があります。これは、ほとんどすべての場合とほぼすべての学問分野で過去30年間の研究で従来十分に資金が不足していたためです。

政策オプション3：個々の科学者は、国家の国際化アジェンダの中心にいるべきです。

国内のシステムは、学術機関が運営、生存、または生存のために戦う条件を決定します。ただし、IRCの重要なノードは、研究で国際的に協力し、国際的な協力で出版する（またはしない）およびトップの学術雑誌で出版する（またはしない）個人科学者です。

個人レベルの研究成果の全国的な集合体は、国の研究成果を決定し、研究における個人レベルの共同研究パターンの集合体は、本報告書の経験的調査結果に関する2つのセクションで議論されているように、全国的な共同研究パターンを決定します。IRCでは、「国」（セクション5）および「機関」（セクション6）の抽象的なレベルは、最終的には、多かれ少なかれ国際的に協力および出版している個々の科学者の集合です。IRCの成功または失敗に関するこの個人レベルの決定を理解することは、IRCの将来を理解する上で重要です。「それは個人の科学者です、バカ！」、ビル・クリントンを言い換えます（科学における制度的および国家的な賞および報酬構造、学術的昇進のシステム、研究資金のレベル、およびその配布方法などを含むIRCの多層的な文脈で）

IRCのモダリティは科学者自身にほぼ完全に依存しているため、今日のIRCにとって個々の科学者は非常に重要です。彼らは、組織的、国内的、国際的に協力するかどうか、そして誰と協力するかを決定し、研究の国際化の決定は、評判、資源、研究利益、潜在的な研究パートナーの魅力に基づいた個々の選択に依存します（Wagner 2018; Da Fonseca Pachiet al. 2012）。このレポートの経験的セクションでは、システム間およびシステム内のIRCのレベルが異なる、さまざまな国家（28か国）およびさまざまな機関（22の主要大学）のコラボレーションパターンが詳細に示されています。ただし、使用されるデータは、出版物から派生した個人レベルのデータの単なる集約です。また、出版物は、（多かれ少なかれ）国際的に協力している個人によってのみ（共）出版されます。

特定の機関に所属する特定の共同研究者のこの基本的な個人レベルでは、IRCに費やされる時間とエネルギーと、この共同研究の研究と公開の結果の間には常にトレードオフがあります。研究における特定のコラボレーションが個々に有益である場合、それは起こります。そうでない場合は発生しません。

したがって、重要な点は、科学者がますますIRCに関与するようにするために、制度から国内（および国際）まで、さまざまなレベルで十分に魅力的な国際化支援研究政策を作成することです。研究で国際的にどのように、誰と、どのトピックで協力するかについて最大の柔軟性を備えたボトムアップアプローチは、上位の出版物だけで定義されている研究の卓越性のハードラインと無条件に組み合わせて、他のどのセットよりも常にうまく機能するはずでIRCプログラムの推奨事項。

科学者が「ピアツーピアで相互につながり、優先的な愛着の過程で特定の個人がますますエリートサークルに選ばれる」ために科学のグローバルネットワークが出現した場合（Wagner 2018 : x）、科学者は国際的に協力しません（米国を除く）すべての国で、進行中のグローバルな科学的会話から徐々に除外されています。

ヨーロッパ全体で、国際主義者は地元の人々と直接競争するか、研究で国際的に協力する科学者は国際的に協力していない科学者と直接競争します（米国とは対照的に、Goodwin and Nacht 1991; Finkelstein and Sethi 2014を参照）。

。アカデミックな名声、インセンティブ、およびアワードを支配する規則が大陸全体でますます均質化するにつれて、権威ある国際的な出版物に基づく個々の評価は、個々のアカデミックキャリアにとってますます重要になっています。ヨーロッパ全体で、学術機関（公的資金と国際ランキングの高さを競う）は、同じ研究ベースの指標を使用する傾向があります。これは、組織の総合的な成功は、採用する学術の個々の研究の成功の分散にかかっているためです。

国内の研究成果の国際的な認知度は、一般的なコラボレーション（国際、国内）および出版（国際チャンネル、国内チャンネル）のパターンにかかっています。これらは、有利なパターンを促進し、他のパターンを思いとどまらせる慎重な政策手段によって、時間の経過とともに変化する可能性があります。

個々の科学者、機関、または国の国際的な認知度を高めるために重要なのは、IRCだけではありません。また、科学者の出版行動の変化と、すべてのジャーナルがグローバルな科学システムで明確な地位を持つ学術ジャーナルの階層化の役割の増加であり、すべての分野が独自のトップレベルのジャーナルを持っています（van Raan 1998）。IRCの方針の一部として、学部、機関、および国家は、もはや科学者の国際的な出版物だけに焦点を合わせるべきではありません。彼らは、*高ランクの学術雑誌の引用の多い出版物にますます焦点を当てるべきです*。これらの出版物のみが世界ランキングでの地位を高め、安定した公的資金を保証できます。これは、高等教育システムの一部の選択された部分のみを財政的に支援する、全国的な「研究の卓越性」イニシアチブの文脈において特に当てはまります。一般に、IRCは個々の科学者に依存していること、および彼らの研究を国際化するという個々の決定を理解することは、国家の国際化アジェンダの中心に据えられるべきです。研究におけるヨーロッパの国際協力の動向は、毎年、日々、グローバルな学術企業に参与している何百万人も科学者によって行われた個々の研究決定の集合です。

英語の完全なドキュメント（114ページ）はこちらです。

[http://www.europarl.europa.eu/stoa/en/document/EPRS_STU\(2019\)634444](http://www.europarl.europa.eu/stoa/en/document/EPRS_STU(2019)634444)



マレク・クウィック。教授（フル）と（2002年）公共政策研究センターのディレクター、Chairholder、インスティテューショナル・リサーチおよび高等教育政策におけるユネスコチェア、ポズナンの大学、ポーランド（www.cpp.amu.edu.pl）。ORCID：0000-0001-7953-1063。連絡先：kwiekm@amu.edu.pl

彼の研究分野は、科学の定量的研究と科学の社会学です。彼の焦点は、国際的な研究協力、学術的生産性、科学の成層化とグローバルな学術エリートであり、グローバルな計量書誌データセットと大規模な国際調査を使用しています。

彼の最近のモノグラフは、*欧州学者の変化です。社会的階層化、作業パターン、研究生産性の比較研究*（London Routledge 2019）。彼は、13か国（OECD、世界銀行、USAID、欧州評議会、UNDP、E&Y、PWC）における大学の資金調達とガバナンスの改革と科学政策について、各国政府と国際機関に幅広く助言を行ってきました。彼の最新の研究報告は、欧州議会のための「EU研究機関の国際協力」です（114 pp.、2019年7月）。2000年以来、彼は、欧州委員会（^{※6} ^{※および} ^{※7} フレームワークプログラム）の資金提供を受けた25の国際的な高等教育研究プロジェクト（グローバルおよびヨーロッパ）の主任研究員または国のチームリーダーです。欧州科学財団（ESF）；そして、フルブライト、フォード、ロックフェラーの基礎。彼は大規模なEU資金による比較プロジェクトのパートナーでした：EDUWEL：Education and Welfare（2009–2013）、WORKABLE：Making Capabilities Work（2009–2012）、EUROAC：The Academic Profession in Europe（2009–2012）、EUEREC：欧州起業家大学（2004–2007）、およびGOODUEP：大学と企業のパートナーシップのグッドプラクティス（2007–2009）。彼は約180の論文と8つのモノグラフを出版し、主に主要な国際ジャーナルに出版しています。